

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	洛西保育園	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

平成 28 年 12 月 12 日

総 評	<p>洛西保育園は昭和 46 年に開設し、平成 10 年に現在の法人に入り、隣接する介護老人施設や特別養護老人ホームなどと子どもが常に交流できる環境がある保育園です。</p> <p>安心して住み続けられるまちづくりの拠点という福祉の精神を謳った法人共通の理念のもと、洛西保育園独自の子ども像「丈夫で元気な子ども・自分の思いを表現できる子ども・友だちを思いやり、友だちと一緒に力を合わせることができる子ども・自分で考え、意欲を持って取りくめる子ども」を定めています。子どもも大人も、自ら考え取り組むことが大切と考えています。</p> <p>保護者はもとより、地域住民や近隣施設との交流を積極的に行っており、様々なかたちで子どもたちが地域と触れ合い社会性を育むと共に、地域福祉の向上にも繋がるよう取り組んでいます。</p> <p>管理者は、保育の質向上のため、様々な園内会議や法人内会議に出席し、園の方針に沿った保育内容となるよう努めています。それは、職員の子ども一人ひとりへの丁寧な関わりからも伺えます。現在、キャリアパスを導入するなど、保育に必要な研修やスキルを体系化しています。ベテランから若手までが学び合い、コミュニケーションを図る中で、今以上に子どもたちが温かく安心して園生活を過ごせるよう取り組んでいます。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月間指導計画は、毎月末に全職員による「集中部屋会議」として評価・反省を実施し、振り返りと管理者のアドバイスをを行い、次月の計画に反映させています。また、公開日誌などでねらいや目標を保護者に知らせています。 ・ 幼児は、給食を好きなタイミングでランチルームの好きな場所に自分のランチマットを敷いて食べられるようにしています。4・5 歳児の盛り付けは、バイキング形式で子ども自身が好きな量を取って食べています。 ・ 管理者による会議を毎月開催し、その内容は職員ニュースとして、園の今後の方向性から施設整備、研修計画、事故報告などのヒヤリハットまで、整理した上で職員に配布し、情報の共有に努めています。 ・ 隣接する特別養護老人ホームや介護施設等との交流や、園で開催する夏祭りやバザー、中京ふれあいまつりへの参加など、地域の子育て家庭や施設と園児が交流する機会を設けています。また、保護者と保育園、法人労働組合の三者が開く子育て講演会、保育園が主催する毎月開催の遊ぼう会などに施設を活用しています。それらの内容を含め、地域新聞を年 3～4 回、園より発行し、地域とのかかわりを大切にしています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、今ある理念、目指すべき保育の全体的計画である保育課程を編成し、0 歳児から 5 歳児までの一貫した年間指導計画を作成し、保護者等への周知を図るとなおいでしょう。 ・ 子どもの家庭での生活の様子についての記入内容が保育室で確認出来るようになっていますが、職員間のみで把握できる様にするなど、工夫されるとより良いでしょう。

※それぞれ内容を 3 点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	洛西保育園
施設種別	保育所
評価機関名	京都府保育協会
訪問調査日	2016年12月12日（月）

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	B	A
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	非該当
	I-2-(2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている。	A	B
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	B	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	A
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	A

[自由記述欄]

・福祉の精神を謳った法人共通の理念のもと、洛西保育園独自の子ども像を定めています。それらに基づき、目指すべき保育内容を冊子にしておき、職員はもとより保護者にも配布し、周知に努めています。また、保護者へは入園時に実施する懇談会で、その内容を説明しています。

・年間指導計画・短期指導計画を作成しています。目指すべき保育内容と年間指導計画を保育課程に代わるものとして位置付けています。今後は、今ある理念、目指すべき保育の全体的計画である保育課程を編成し、0歳児から5歳児までの一貫した年間指導計画を作成し、保護者等への周知を図るとなおります。

・年間指導計画は、毎年5月の初めに年間指導計画会議を開き、全職員参画のもと作成しています。その内容は、10月に中間総括、年度末に総括会議を開き、評価・反省を実施すると共に、次の計画に反映するようにしています。月間指導計画は、毎月末に集中部屋会議として評価・反省を実施し、振り返りと管理者のアドバイスをし、次月の計画に反映させています。また、公開日誌などでねらいや目標を保護者に知らせています。

・管理者による会議を毎月開催し、その内容は職員ニュースとして、園の今後の方向性から施設整備、研修計画、事故報告などのヒヤリハットまで、整理した上で職員に配布し、情報の共有に努めています。法人内で保育部会として施設長会議を毎月開催し、情報共有や運営等の改善に繋がるよう取り組んでいます。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	B	A
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要の人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
		② 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	A
	③ 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	B	A	
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	B	A
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。		B	B	
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	C	A	
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	C	A	
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者との関係が適切に確保されている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	C	A
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	B	A

[自由記述欄]

・必要の人材や、職員配置に関する園の体制を明記しています。キャリアパス制度を構築し、それに基づいた職務や研修を明示しています。

・管理者は、職員面談を年2回実施し、職員の就業状況や意向を把握するよう努めています。また、1時間の休憩を必ず別室でとれるようにしたり、月2回の土曜日出勤でシフトが組めるよう、管理者やパート職員も含めて連携しています。

・研修に対する理念や基本姿勢、階層ごとの職務、目標、研修内容などが明記されたキャリアパスを作成しており、それに基づいた研修に参加できる体制を整えています。また、園内研修として毎月の全体職員会議や月2回実施する乳幼児の各会議の中で研修内容を発表し、情報共有する機会を設けています。今後は、それらの内容を踏まえ、研修計画に対する評価・見直しを実施されるとより良いでしょう。

・隣接する近畿看護学校と連携し、保育士だけでなく看護師の実習生受け入れも積極的に行っています。実習生受け入れに対するマニュアルや実習生向け心得を作成し、実習担当から実習生に配布し説明しています。最終日には園長と実習生とで反省会を行っています。

・隣接する特別養護老人ホームや介護施設等との交流や、園で開催する夏祭りやバザー、中京ふれあいまつりへの参加など、地域の子育て家庭や施設と園児が交流する機会を設けています。また、保護者と保育園、法人労働組合の三者学習会が開く子育て講演会、保育園が主催する毎月開催の遊ぼう会などに施設を活用しています。それらの内容を含め、地域新聞を年3~4回、園より発行し、地域とのかかわりを大切にしています。ボランティア受け入れもっており、マニュアルに基づいてオリエンテーションを実施し、しおりを配布しています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	B	B
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	C	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	C	B
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	B	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	C	B
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B	A
		② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	B	A
[自由記述欄]				
<p>・個人情報に対する職員への誓約書、保護者には同意書ももらっています。今後は、子どもの家庭での生活の様子についての記入内容が保育室で確認出来るようになっていきますが、職員間のみで把握できるようにするなど、工夫されるとより良いでしょう。また、記録関係の保存・廃棄などの規程も定めていますが、今後はその規程に基づいて廃棄を実施されるとより良いでしょう。</p> <p>・苦情解決の仕組みが整備され、園内に掲示されています。苦情や要望内容は記録され、対応・解決内容が今後に活かされるようにしています。それらに対するマニュアルも整備しています。</p> <p>・初めての第三者評価受診ですが、受診をきっかけとして今までなかったマニュアル整備や運営内容の見直しに役立てています。また、個別の自己評価として職員アンケートを実施し、年2回の職員面談では、そのアンケートをもとに話し合い、職員の資質向上に繋がるよう努めています。</p>				

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	B	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	B	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	B	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	B	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	B	B
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	B	B
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	B
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	B	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	B	B
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	B	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	B	A

【自由記述欄】

・登園時や保育中の子どもの健康状態についての対応内容について、全職員が把握しています。日々の内容についても業務日誌を通して職員間で情報共有できるよう周知に努めています。内科健診は、幼児年2回、乳児年3回実施、歯科健診は、乳幼児ともに年1回実施し、その内容は記録され、保護者に伝えると共に職員間で共有しています。感染症発生時対応マニュアルを整備し、予防方法など、園内に掲示し保護者に知らせています。

・乳児棟の屋上に畑があり、種や苗植えから収穫までを、園児が体験出来るようにしています。食育として、給食食材として利用したりクッキング保育で調理体験も行っています。幼児は、給食を好きなタイミングでランチルームの好きな場所に自分のランチマットを敷いて食べられるようにしています。4・5歳児の盛り付けは、バイキング形式で子ども自身が好きな量を取って食べています。2・3歳児は、一人ずつ職員が対面で盛り付けを行い、子どもの希望を聞くようにしています。おやつは手作りで提供しています。給食懇談会や離乳食懇談会の開催や、年3回保護者向けに一口試食会をお迎えの時間に実施しています。

・施設内は無垢材を使用したり、乳児棟は暖色系の明かりにするなど、暖かい雰囲気があります。また、コーナー遊びのスペースやマット、巧技台など、思い思いに遊べる環境を各保育室に整備しています。今後は、状況に応じておもちゃを入れ替えるなど、保育環境に工夫されるとより良いでしょう。施設内の衛生面の点検チェックを実施しています。今後は、各保育室内に温湿度計を設置するなど、温度・湿度に配慮できるよう工夫されるとより良いでしょう。園庭には、新たに実のなる木を中心に植えるなど、季節を感じられるよう配慮しています。今後は、室内の保育環境でも季節を感じられるよう工夫されるとより良いでしょう。

・薄着保育を勧めます。園外保育にも積極的に取り組んでおり、法人所有の園バスも利用し、周辺の公園などに出かけています。乳児との丁寧な関わりを大切に、安心して過ごしている様子があります。それらの取組み内容は、5歳児まである連絡ノートなどにも記入し、保護者へ知らせています。年長児は、和太鼓を行います。今後は、他の楽器なども楽しめるよう工夫されるとより良いでしょう。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	B	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	B	B
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	B	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	非該当	非該当

[自由記述欄]

・入園時に家庭訪問、年1回の個人懇談、年4回開催のクラス懇談会、年2回の離乳食懇談会、年1回の給食懇談会を開催し、園の保育内容に対して共通の理解が持てるよう取り組んでいます。また、個人懇談の内容は記録されており、保育内容に反映するよう努めています。

・虐待への対応を管理者を中心にしっかりと実施しています。今後は、現在実施している内容を明文化するなど、虐待への対応マニュアルを作成し、職員間で共有されるとより良いでしょう。

・一時保育は実施していません。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	C	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	C	B

[自由記述欄]

・調理場等の衛生管理マニュアルがあり、チェック表に基づいて適切に実施しています。

・食中毒や感染症、食物アレルギー緊急時対応、事故防止、事故発生時対応などのマニュアルが整備されており、まとめてマニュアル冊子を作成し、職員室に職員が見れるよう設置しています。また、リスクマネジメント委員会を設置し、ヒヤリ・ハットの作成や、危険箇所や修繕箇所の報告を随時実施しており、職員間で情報を共有しています。

・不審者侵入時のマニュアルがあり、職員間で内容を共有しています。今後は、実際に起こった場合を想定し、マニュアルに基づいた対応ができるよう研修などを実施されると良いでしょう。